

令和4・5年度 長崎県教育委員会研究指定

令和4・5年度 松浦市教育委員会研究指定

# 学習指導案・実践記録集

研究主題

自ら学びに向かう鷹島っ子の育成  
～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～



松浦市立鷹島小学校

# 目次

## 【学習指導案】

I	研究発表会 学習指導案	
	第3学年 単元名「かけ算の筆算を考えよう」	P 1～2
	第6学年 単元名「順序よく整理して調べよう」	P 3～4
II	今年度実践した学習指導案	
	第5学年 単元名「小数のかけ算」	P 5～6
	第2学年 単元名「ひっ算のしかたを考えよう」	P 7～8
	第1学年 単元名「3つのかずのけいさん」	P 9～10
	第4学年 単元名「倍の見方」	P1 1～12
	第4学年 単元名「垂直, 平行と四角形」	P1 3～14

## 【研究資料】

・たか島っ子の学びのかまえ	P1 5
・家庭学習の手引き（低学年・中学年・高学年）	P1 6～18
・漢字の取組について	P1 9～20
・チャレンジカードについて	P2 1
・鷹島タブレット（たかたぶ）スキル表	P2 2
・令和5年度 たかたぶタイム計画表	P2 3
・学び方アンケート（児童）	P2 4～29
・家庭学習アンケート（保護者）	P3 0～33
・アウトメディアカード	P3 4～35

# 學習指導案

### 第3学年 算数【予習型】学習指導案

令和6年1月26日(金) 5校時 第3学年13名 指導者 森光 文子

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

#### 1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.10 Google フォーム)
【展開】	授業で、自分の考えを伝えたり、考えの理由を伝えたりすることができているか。
【終末】	(ア できている【8】 イ 少しできている【3】 ウ あまりできていない【2】 エ 全くできていない【0】)
【習熟】	苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができているか。 (ア できている【7】 イ 少しできている【5】 ウ あまりできていない【1】 エ 全くできていない【0】)

#### 2 児童の学びに向かう力を発揮させるために ※白抜き丸数字は、学校共通の課題

【指導過程】	11月までの日々の授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】 答えだけでなく、自分の考えや、既習の学習をどのように生かしたかを書けるよう、ワークシートやスライドを工夫する必要がある。 【予習②】 分からないことがあった場合は、どんなことが難しかったかを明らかにさせるようにすることで、その後の学習につなげられるようにする。
【展開】 【終末】	【展終①】 開き合いの場面で、話すだけ、聞くだけにならないよう、話し合いに具体的な視点を与える必要がある。 【展終②】 まとめ場面で、児童が自分の考えをまとめられるようにする必要がある。
【習熟】	【習熟①】 それぞれの児童が自分に合った方法を選び、分かるまで取り組めるよう、選択肢をたくさん用意し、時間を十分に確保する必要がある。 【習熟②】 次の指導に生かせるよう、全員が目標を達成することができたかをしっかりと見取る必要がある。
【導入】	【導入①】 児童が次時の課題に見通しをもって取り組めるようにする必要がある。

#### 3 題材について

単元名	かけ算の筆算を考えよう	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>2位数や3位数に2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解している。</li> <li>乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いることができる。</li> <li>乗法に関して成り立つ性質について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>

#### 4 前時の授業終盤(導入)

主な学習活動	児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て
○次時の課題をつかむ 課題 58×46を筆算でしましょう。	○見通しをもって予習に取り組めるよう、予習で考えることを「232が左にずれている理由」に絞る。【導入①】
○次時のめあて めあて と中の計算の答えが3けたになる筆算の仕方を考えよう。	○自分の考えや、既習の学習をどのように生かしたかを書けるよう、ワークシートやスライドを工夫する。【予習①】 ○全員が自分の考えをもてるよう、教科書や友達の提出したノートを見て、理由や考えを書いてよいことを伝える。また、分からないことがあった場合は、どんなことが難しかったかを明らかにするよう促す。【予習②】

#### 5 本時の予習(記述の想定)

① 232が左にずれている理由を正しく説明できている。	② 232が左にずれている理由を正しく説明できていない。				
<table border="1"> <tr> <td> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 46 \\ \hline 348 \\ 232 \\ \hline 2668 \end{array}</math> </td> <td> <p>はじめに、<math>58 \times 6</math>を計算して 348。 次に、<math>58 \times 40</math>を計算して 2320。 最後に 348 と 2320 を合わせて 2668。</p> <p>232は、<math>58 \times 40</math>の2320のことです。 2は20の2だから十の位に書きます。</p> </td> </tr> </table>	$\begin{array}{r} 58 \\ \times 46 \\ \hline 348 \\ 232 \\ \hline 2668 \end{array}$	<p>はじめに、<math>58 \times 6</math>を計算して 348。 次に、<math>58 \times 40</math>を計算して 2320。 最後に 348 と 2320 を合わせて 2668。</p> <p>232は、<math>58 \times 40</math>の2320のことです。 2は20の2だから十の位に書きます。</p>	<table border="1"> <tr> <td> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 46 \\ \hline 348 \\ 232 \\ \hline 2668 \end{array}</math> </td> <td> <p>はじめに、<math>58 \times 6</math>を計算して 348。 次に、<math>58 \times 4</math>を計算して 232。 最後に 348 と 232 を合わせて 2668。</p> </td> </tr> </table>	$\begin{array}{r} 58 \\ \times 46 \\ \hline 348 \\ 232 \\ \hline 2668 \end{array}$	<p>はじめに、<math>58 \times 6</math>を計算して 348。 次に、<math>58 \times 4</math>を計算して 232。 最後に 348 と 232 を合わせて 2668。</p>
$\begin{array}{r} 58 \\ \times 46 \\ \hline 348 \\ 232 \\ \hline 2668 \end{array}$	<p>はじめに、<math>58 \times 6</math>を計算して 348。 次に、<math>58 \times 40</math>を計算して 2320。 最後に 348 と 2320 を合わせて 2668。</p> <p>232は、<math>58 \times 40</math>の2320のことです。 2は20の2だから十の位に書きます。</p>				
$\begin{array}{r} 58 \\ \times 46 \\ \hline 348 \\ 232 \\ \hline 2668 \end{array}$	<p>はじめに、<math>58 \times 6</math>を計算して 348。 次に、<math>58 \times 4</math>を計算して 232。 最後に 348 と 232 を合わせて 2668。</p>				

6 本時の目標

○2位数×2位数(部分積が2, 3桁で繰り上がりなし, 繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。

【知識・技能】

7 本時 (5/10)

	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を 発揮させるための教師の手立て	児童の反応・ 児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・ キーとなる発言・授業風景など
展開 15分	1 予習してきた自分の考えを, ノートやchromebookを使って説明する。 自分の考えと友達のを比べながら聞く。	○話すだけ, 聞くだけにならないよう, 「232を左へ一桁ずらす理由」について, 自分の考えや, 既習の学習をどのように生かしたかを中心に話し合うよう促す。また, 友達のを自分の考えに付け足したり, 考えの同じところを確かめ合ったりする時間を設ける。【展終①】		
	2 筆算の仕方を確認する。 はじめに一の位を計算する。 $58 \times 6 = 348$ 次に十の位を計算する。 $58 \times 40 = 2320$ 最後に348と2320を合わせて2668。	○232を左に一桁ずらして書くことの意味をとらえることができるよう, 0を省略しない形式と関連付けて確認する。【展終①】		
終末 5分	3 学習のまとめを行う。 <b>まとめ</b> と中の計算の答えが3けたになっても, 一の位からじゆんに位ごとに計算するとよい。	○児童が自分の言葉でまとめることができるよう, 書き出しを揃える。個別に評価する。【展終②】 ○問題を解くポイントに気付けるよう, 児童が考えたまとめを共有する。【展終②】		
習熟 18分	4 習熟問題に取り組む。	○自分に合った方法を選び, 取り組めるよう, 教科書の問題に加え, デジタルドリルや補充プリントなどを準備する。【習熟①】 ○次の指導に生かせるよう, 全員が理解できたかを確認し, 理解が不足している児童には個別指導を行う。【習熟②】		
導入 7分	5 次時の課題をつかむ。 <b>課題</b> $86 \times 30$ , $3 \times 46$ の筆算の仕方を考えましょう。	○見通しをもって予習に取り組めるよう, 本時との違いについて問い, 既習の学習を生かすよう促す。【導入①】		
	6 次時のめあて <b>めあて</b> 今までの学習を生かして筆算の仕方を考えよう。	○次時で発表できるよう, ワークシートに自分の考えを書いてスライドに貼り, 既習の学習をどのように生かしたかを書き加えるよう促す。【予習①】		

8 参観者のコメント (気付き・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など)

視点 ①自分の考えを伝えたり, 考えの理由を伝えたりすることができていたか。  
②苦手な問題に, できるようになるまで取り組むことができていたか。  
③既習の学習を振り返り, 本時の学習に活用しようとしていたか。

参観者

第6学年 算数【予習型】学習指導案

令和5年1月26日(金) 5校時 第6学年13名 指導者 福原 美里

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.10.Google フォーム)
【展開】	授業で、自分の考えを伝えたり、考えの理由を伝えたりすることができているか。
【終末】	(ア できている【6】 イ 少しできている【4】 ウ あまりできていない【2】 エ 全くできていない【1】)
【習熟】	苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができているか。 (ア できている【2】 イ 少しできている【7】 ウ あまりできていない【3】 エ 全くできていない【1】)

2 児童の学びに向かう力を発揮させるために ※白抜き丸数字は、学校共通の課題

【指導過程】	11月までの日々の授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】 答えを書くだけでなく、理由やポイントも書けるように事前指導やワークシートの準備等が必要である。 【予習②】 問題を最後まで解くことができなかった場合は、どこでつまづいたかを明確にさせるようにすることで、その後の学習につなげられるようにする。
【展開】 【終末】	【展終①】 問題の開き合いの場面において、話すだけ、聞くだけにならないよう、話し合いに具体的な視点を与える必要がある。 【展終②】 児童が自分の考えでまとめを導くことができるようにする必要がある。
【習熟】	【習熟①】 問題を理解できるよう児童同士で教え合ったり、教師が机間巡視しながら個別指導を行ったりできるよう、時間を十分に確保する必要がある。 【習熟②】 次の指導に生かせるよう、全員が目標を達成することができたかをしっかりと見取る必要がある。
【導入】	【導入①】 本時との違いに気付き、児童が自分自身でめあてを立てられるようにする必要がある。

3 題材について

単元名	順序よく整理して調べよう	
	知識・技能	思考・判断・表現
	主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序や組み合わせなどの事象について、落ちや重なりがないように、図や表を用いて、規則に従って正しく並べたり、整理して見やすくしたりして、全ての場合を調べる方法を知り、調べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ちや重なりなく調べるために、観点を決め、順序よく整理して考えている。</li> <li>図や表を適切に用いたり、名前を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道立てて考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>図、表などを用いて表すなどの工夫をしながら、落ちや重なりがないように、順序よく調べていこうとしている。</li> <li>順序や組み合わせの求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>

4 前時の授業終盤(導入)

主な学習活動	児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て
○次時の課題をつかむ	○本時との違いに気付くことができるよう、既習内容の図や表をヒントに予習の見通しをもたせる。【導入①】
課題 A,B,C,Dの4つのチームで、バスケットボールの試合をします。どのチームも、ちがったチームと1回ずつ試合をするとき、どんな対戦があるか調べましょう。	○児童との話し合いの中で、樹形図で表すことができることを確認し、予習では樹形図ともう一つ別の方法で解いてくるよう促す。
○次時のめあて	○児童同士で話す時間を確保し、自分自身の言葉でめあてを書かせる。【導入①】
めあて 落ちや重なりがないように組み合わせ方を調べる方法を考えよう。	○自分の考えをノートにまとめ、それを写真に撮り、スライドに貼り付けさせる。
	○教科書や友達の提出したノートを見て、理由や考えを真似して書いてよいことを伝える。その際、どうしてそうなったかを自分なりにしっかり考えながら取り組むよう促す。【予習①】
	○最後まで解くことができなかった児童は、どこでつまづいたかを明確にするよう促す。【予習②】

5 本時の予習(記述の想定)

○ 樹形図で表す方法	○ 表でかく方法	○ 図でかく方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>Aから順番に書き出すと落ちがない。</li> <li>重なっているところは消す。</li> <li>数が少ない時はいいが多くなると少し大変そう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ななめ線は対戦がないところ。</li> <li>同じ試合は、はじめから書いていない。</li> <li>表の半分だけで調べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辺と対角線の数を数えると、試合数が分かる。</li> </ul>

6 本時の目標

○組み合わせについて、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

【思考・判断・表現】

7 本時（3／6）

	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を 発揮させるための教師の手立て	児童の反応・ 児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・ キーとなる発言・授業風景など
展開 15分	1 予習してきた自分の考えを、ノートやchromebookを使って説明する。 自分の考えと友達の考えを比べながら聞く。	○教師は予習の段階でグループ分けをしておき、各グループでより多くの方法を伝え合うことができるようにする。		
	2 それぞれの方法を確認する。 ○ 樹形図で表す方法 ○ 表でかく方法 ○ 図でかく方法	○グループ学習で、話すだけ、聞くだけにならないように、「自分の解いてきた方法の中で、落ちや重なりがないようにどのように工夫しているか」を中心に話し合うよう促す。 【展終①】		
終末 5分	3 学習のまとめを行う。 <b>まとめ</b> 落ちや重なりがないように組み合わせ方を調べるときも、並べ方のときと同じように、図や表に表して、順序よく調べるとよい。	○授業で分かったことを、まずは一人でまとめさせる。難しい児童がいる場合は、キーワードを提示する。個別に評価する。【展終②】		
習熟 18分	3 習熟問題に取り組む。 プリントやデジタルドリルなど、自分で選んで解く。  分からない問題について、教師に質問し、授業内で間違った問題を繰り返し解く。 児童同士で確認し、課題解決へ向けて活動する。	○デジタルドリルで解く問題は、図や表などをかくときには必要に応じてノートを活用させ、ノートの有用性を知らせる。  ○全員が理解できたかを確認し、理解が不足している児童には個別指導を行ったり、児童同士と一緒に取り組みながら教え合ったりできるようにする。【習熟①②】		
導入 7分	4 次時の課題をつかむ。 <b>課題</b> 5つのアイスクリームの中から、ちがう種類の2つを選んで買います。どんな組み合わせがありますか。また、全部で何通りありますか。	○課題提示：次時の問題を電子黒板で提示する。  ○児童の問いが生じるように、本時との違いについて考えるよう促す。場合によっては、ペアトークを取り入れる。【導入①】		
	5 次時のめあて <b>めあて</b> これまでの学習を生かして、落ちや重なりのないように調べる方法を考えよう。	○問いから出た言葉を基に、児童がそれぞれ自分の言葉でめあてを立てるようにする。【導入④】 ○予習したことを撮影し、次時で説明できるよう理由や考えを自分の言葉でまとめるなど準備を促す。		

8 参観者のコメント（気付き・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など）

視点 ①授業で、自分の考えを伝えたり、考えの理由を伝えたりすることができていたか。  
②苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができていたか。  
③既習の学習を振り返り、本時の学習に活用しようとしていたか。

参観者

第5学年 算数【予習型】学習指導案

令和5年5月25日(木) 3校時 第5学年12名 指導者 摩嶋 俊祐

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.4.26 Google フォーム)
【予習】 予習に関する意識	7 家で、算数の予習をしていますか。 (いつもしている【5】 だいたいしている【5】 あまりしていない【2】 していない【0】) 10 算数以外の教科でも予習をしていますか。 (いつもしている【2】 だいたいしている【3】 あまりしていない【4】 していない【3】)
【習熟】	12 タブレットを使って、自分に合った問題や方法を選び、取り組むことができますか。 (できている【5】 どちらかといえばできている【5】 どちらかといえばできていない【2】 できていない【0】) 17 ながてな問題に、できるようになるまで取り組むことができますか。 (できている【2】 どちらかといえばできている【6】 どちらかといえばできていない【2】 できていない【2】)

2 児童の学びに向かう力を発揮させるために

【指導過程】	5月までの日々の授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】答えだけを書く児童が多いので、考えを整理できるように理由や考えを書きやすくする追究が必要である。 【予習②】児童の予習をどう授業に生かしていくか日々悩みながら授業づくりに取り組んでいる。
【展開】 【終末】	【展終①】chromebookの活用法(学びの蓄積・学びの共有による思考の促進)、活用の意図を明確化し、効果的な活用の在り方を追究する必要がある。 【展終②】児童が自分の考えをまとめられるようにする必要がある。
【習熟】	【習熟①】デジタルドリルで金トロフィーが取れていてもつまずきはあるようだった。そのつまずきをどのように把握し、次時の指導に役立てるかを検証していく必要がある。
【導入】	【導入①】児童が自分の考えでめあてを立てられるようにする必要がある。

3 題材について

単元名	小数のかけ算	
	知識・技能	思考・判断・表現
	主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗数が小数である場合の乗法の意味について、乗数が整数である場合の計算の考え方を基にして、理解している。</li> <li>1/100の位までの小数の乗法の計算ができる。</li> <li>小数の乗法について、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗数が小数である場合まで数の範囲を広げて、小数を用いた倍の意味などをもとに、乗法の意味を捉え直している。</li> <li>小数の乗法について、小数の意味や表現を基にしたり、乗法に関して成り立つ性質を用いたりして計算の仕方を多面的に考えている。</li> <li>小数の乗法の計算を用いて、日常生活の問題を解決している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことをもとに、小数の乗法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に考え検討したりしようとする。</li> <li>小数の乗法の計算の仕方を振り返り、筆算での処理に生かそうとする。</li> <li>小数の乗法の計算に、乗法に関して成り立つ性質などが有効に働いていることよきさに気づき、学習に活用しようとする。</li> </ul>	

4 前時の授業終盤(導入)

主な学習活動	児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て
○次時の課題をつかむ 課題 2.14×3.8を筆算で解きましょう。	○小数×整数の筆算の仕方や、214×38の計算の仕方をヒントに、予習の見通しをもたせる。
○次時のめあて めあて 小数のかけ算の筆算の仕方を考えよう。	○児童同士で話す時間を確保し、自分自身の言葉でめあてを書かせる。【導入①】 ○自分の考えをノートにまとめ、それを写真に撮り、jamboardに貼り付けさせる。 ○教科書や友達の提出したノートを参考にして、理由や考えを書いてよいことを伝える。【予習①】


5 本時の予習(記述の想定)

①筆算で計算する。まず、小数点を考えずに214×3.8を計算する。	②答えの小数点の位置を間違おう。	③小数点の位置を揃えて筆算で計算する。
$\begin{array}{r} 2.14 \\ \times 3.8 \\ \hline 1712 \\ 642 \\ \hline 8.132 \end{array}$	$\begin{array}{r} 2.14 \\ \times 3.8 \\ \hline 1712 \\ 642 \\ \hline 8132 \end{array}$	$\begin{array}{r} 2.14 \\ \times 3.8 \\ \hline 1712 \\ 642 \\ \hline 81320 \end{array}$
次に、214は2.14の100倍で、38は3.8の10倍なので、214×38の答えを1000で割る。よって、答えは8.132になる。		

6 本時の目標

○小数×小数の計算の仕方を、乗法の性質を基に考えることを通して、小数×小数の筆算の仕方を考えることができる。【思考・判断・表現】
○小数×小数の筆算を理解し、計算することができる。【知識・技能】



	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を 発揮させるための教師の手立て	児童の反応・ 児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・ キーとなる発言・授業風景など
展開 15分	1 予習してきた自分の考えを、ノートやchromebookを使って説明する。 自分の考えと友達のことを比べながら聞く。	○教師は事前に jamboard を確認する。課題が見られた児童の学び合いを観察し、適宜指導する。【予習②】 ○chromebook の画面を示しながら予習してきたことを説明し合い、質疑応答を行うことで、全員で課題解決ができるようにする。【展終①】 ○児童が児童を指名するように促す。	・ノートを見せ合い、2～3人で学び合いの中で、質問し合っていた。  2.14 を 100 倍して 3.8 を 10 倍して $214 \times 38 = 8132$ $8132 \div 1000 = 8.132$	 予習の時に、 2.14 $\times 3.8$ と書いていた子が、「小数点をそろえるべきなのかなあ?」と迷っている子がいたよ。どうかな?
	2 筆算の仕方を確認する。	○小数のかけ算の筆算の仕方を、黒板等を使って全体で確認する。 ○なぜ小数点を動かすのか、かけ算の性質をもとに説明させるようにする。	整数にしたらよい!  小数をそろえるのは、 たし算やひき算の時だよ。	
終末 5分	3 学習のまとめを行う。	○授業で分かったことを、まずは一人でまとめさせる。一人でまとめる際は、一文でよいので自分の言葉で書くように指導する。個別に評価する。【展終②】	・板書に残されたキーワードをもとに、自分の言葉でまとめていた。早くできた子は、他の子にもアドバイスしていた。	
	4 教科書の練習問題に取り組む。	○デジタルドリルで解く問題はノートに書かせ、計算の跡を残すことで間違いに気付きやすいことなど、ノートの有用性を指導する。【習熟①】	・一人で学ぶ子、複数で学ぶ子、プリントを選ぶ子、デジタルドリルを選ぶ子など、自分で習熟方法を選んでいった。 ・答えの教え合いになってしまう場面が一部見られた。	・個別でのまとめの確認はあったが、全体でのまとめの確認はなかった。必要では?
習熟 15分	5 デジタルドリルの問題に取り組む。	○理解が不足している児童に対して、教科書や前時までの予習の様子を示した画像を jamboard で振り返るよう促す。【展終①】		
	6 次時の課題をつかむ。	○課題提示：次時の問題を電子黒板で提示する。【展終①】 ○児童の問いが生じるように、本時との違いについて考えるよう促す。場合によっては、友達と対話する時間を設定する。【導入①】	数が大きい!  0 がたくさんある!  一の位に 0 がある!	「積の最後や最初に…」。 続きは自分で書いてみよう。
導入 10分	7 次時のめあて	○本時の学習を基にノートに自分の考えを書き、予習したことを撮影し、次時で発表できるように準備を促す。	・疑問を共有することで、自分の言葉で書くことができた。	
	まとめ 小数のかけ算の筆算は整数で計算してから小数点の位置を考えることで求めることができる。			
	課題 筆算のしかたを説明しましょう。 $\begin{array}{r} 4.92 \\ \times 7.5 \\ \hline 2460 \\ 3444 \\ \hline 36900 \end{array} \quad \begin{array}{r} 0.18 \\ \times 3.4 \\ \hline 72 \\ 54 \\ \hline 0.612 \end{array}$			
	めあて 積の最後や最初に0がつく筆算のしかたを考えよう。			

8 参観者のコメント (気付き・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など)

視点	○タブレットを使って、自分に合った問題や方法を選び、取り組むことができていたか。 ○苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができていたか。 ○既習の学習を生かして、 $2.14 \times 3.8$ の筆算の仕方を説明しようとしていたか。
参観者	学ぶ媒体や学ぶ形態を、子どもたち自身で選ぶことができていてよかった。一方で、友達の答えに頼ってしまう場面が一部見られたので、教え合う風土やできるようになりたいという気持ちを一層育てていく指導を継続していくとよい。

第2学年 算数【予習型】学習指導案

令和5年9月21日(木) 5校時 第2学年14名 指導者 山口 真優希

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.7 Google フォーム)
【展開】	2 友達や先生に質問することができているか。
【終末】	(ア できている【3】 イ 少しできている【8】 ウ あまりできていない【2】 エ 全くできていない【1】)
【習熟】	17 苦手な問題をできるまで繰り返すことができているか。 (ア できている【5】 イ 少しできている【6】 ウ あまりできていない【3】 エ 全くできていない【0】)

2 児童の学びに向かう力を発揮させるために ※白抜き丸数字は、学校共通の課題

【指導過程】	7月までの日々の授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】自分の考えを書くことができるようにワークシートを準備する必要がある。 【予習②】児童の予習をどう授業に生かしていくか日々悩みながら授業に取り組んでいる。
【展開】	【展開①】児童が言葉で説明したり、書いたりするなど、自らの考えを表出できるような教材の工夫が必要である。
【終末】	【終末①】児童の言葉でまとめることができるように、本時のキーワードとなることを開き合いにおいて確認する必要がある。
【習熟】	【習熟①】デジタルドリルでの学習で同じ課題を繰り返すことがないように児童の進捗状況やつまづきを把握し、次時の指導にいかす。 【習熟②】全員が問題を解くことができたかを確認するために、机間指導で確認する必要がある。
【導入】	【導入①】児童が本時との違いに気づき課題を捉えることができるようにする。

3 題材について

単元名	ひっ算のしかたを考えよう		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできる。また、それらの筆算の仕方についても理解している。</li> <li>簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を知っている。</li> <li>加法及び減法に関して成り立っている性質について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法及び減法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>

4 前時の授業終盤(導入)



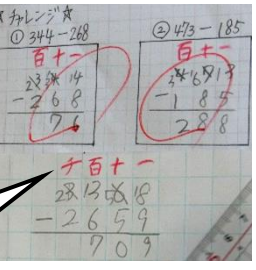

主な学習活動	児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て
○次時の課題をつかむ 課題 146-89を筆算でしましょう。	○既習の計算方法をヒントに、予習の見通しをもたせる。  ○児童同士で話す時間を確保し、自分自身の言葉でめあてを書かせる。
○次時のめあて めあて 一の位からくり下がりのあるひっ算のしかたを考えよう。	○自分の考えをノートにまとめることができるようにワークシートを準備する。【予習①】  ○教科書や友達の提出したノートを見て、理由や考えを真似して書いてよいことを伝える。

5 本時の予習(記述の想定)

① 筆算で計算する。 $\begin{array}{r} 146 \\ - 89 \\ \hline 57 \end{array}$	はじめに、一の位の計算をする。6から9は引けないので、十の位から1繰り下げる。16-9=7 次に、十の位の計算をする。3から8は引けないので、百の位から1繰り下げる。13-8=5 百の位には数字が残っていないので答えは、57である。	② 繰り下がりせず計算する。 $\begin{array}{r} 146 \\ - 89 \\ \hline 143 \end{array}$	一の位から順番に計算しているが、繰り下がりをせずに、大きい数字から小さい数字を引いて計算をしている。
---	--	--	--

6 本時の目標

○3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を、数の見方や既習の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。【思考・判断・表現】
---

	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を発揮させるための教師の手立て	児童の反応・児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・キーとなる発言・授業風景など
展開 15分	<p>1 予習してきた自分の考えを、ノートを使って説明する。 自分の考えと友達のを比べながら聞く。</p>	<p>○教師は事前に児童が予習してきたものを確認する。児童は、事前に教師に質問することで、授業に見通しがもてるようにしておく。</p> <p>○ワークシートを示して予習してきたところをグループで説明し合いながら、全員で課題解決ができるようにする。【展開①】</p>	<p>・ノートを指し示しながら3～4人で開き合いを行った。</p> <p>違うところは、一の位と十の位で2回繰り下がりがあるところだね。</p> <p>何も見ずに、ひっ算のし方を説明することができる。</p> <p>・間違いの理由を考え発表する。</p>	  <p>・全員が予習の段階で正解していたために、間違い探しを行った。</p>
終末 5分	<p>2 筆算の仕方を確認する。</p> <p>まず、一の位の計算をする。6から9は引けないので、十の位から1繰り下げる。16-9=7 次に、十の位の計算をする。3から8は引けないので、百の位から1繰り下げる。13-8=5 百の位には数字が残っていないので答えは、57である。</p>	<p>○児童の予習からいくつか取り上げ、正しい引き算の筆算の仕方を、全体で確認をする。また、間違いも取り上げ、間違えている理由も説明し、課題解決につなげる。【予習②】</p>	<p>①は、一の位も十の位も繰り下がりをしていない。 ②は、繰り下げをしたのに十の位の数字が4→3になっていない。</p>	<p>① <math display="block">\begin{array}{r} 146 \\ - 89 \\ \hline 143 \end{array}</math></p> <p>② <math display="block">\begin{array}{r} 146 \\ - 89 \\ \hline 67 \end{array}</math></p>
習熟 15分	<p>3 学習のまとめを行う。</p> <p><b>まとめ</b> 一の位からくり下がりのあるひっ算も一の位からじゅんに計算するとよい。</p>	<p>○桁がふえても既習のやり方と同じであることに児童が気付きまとめを行うことができるように板書にキーワードを記しておく。</p> <p>【終末①】</p>	<p>・キーワードをもとに、児童の言葉を組み合わせながらまとめることができた。</p> <p>・習熟の時間は20分間とることができた。レベル1・2の問題を解くことを目標とし、全員が目標のレベル2まで解くことができた。</p>	<p>・位を意識させるように、「一の位に～」や「十の位に～」などのキーワードを言いながら答えを書くとよかった。</p> 
導入 10分	<p>4 習熟問題に取り組む。</p>	<p>○まずは、教科書の問題に取り組み、その後、デジタルドリルや補充プリントなどそれぞれに合った方法を選び問題に取り組めるようにする。【習熟①】</p> <p>○机間指導で声掛けを行い、全員が習熟問題に取り組むことができたか確認する。【習熟②】</p>	<p>問題を解く際に位をそろえるため工夫して書き込んでいた。</p> <p>十の位に0がある！</p> <p>あれ？</p> <p>十の位から繰り下がりができない！</p>	 <p>何があれ？</p>
	<p>5 次時の課題をつかむ。</p> <p><b>課題</b> 102-65のひっ算のし方を考えよう。</p>	<p>○次時の課題を提示する。</p> <p>○児童の中で問いが生じるように問題を解き、本時との違いについて全体で確認する。場合によっては、友達と対話する時間を設定する。</p>	<p>★ちがうところ、どこ？ 十の位からくり下がりができない そのまくり下げてもひっ算から</p>	
	<p>6 次時のめあて</p> <p><b>めあて</b> 十の位からくり下げることができないひっ算のし方を考えよう。</p>	<p>○児童の問いから出た言葉をもとに、めあてをたてることができるように、キーワードを板書する。【導入①】</p> <p>○本時の学習をもとに、ワークシートに自分の考えや気づきを書いて次時に発表できるように準備する。</p>		<p>・児童に次時の課題を一度解かせることで本時との違いに気づかせ、めあてを児童の言葉でたてることができた。</p>

8 参観者のコメント (気付き・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など)

- 友だちや先生に質問することができていたか。
- 苦手な問題をできるまで繰り返し取り組むことができていたか。
- 前時の学習を生かして、3位数-2位数の筆算の仕方を説明することができたか。

参観者 習熟の場面で最も児童が学びに向かうことができていた。児童から「学びたい」と感じているのが伝わって良かった。また、全員が間違えても正解するまで何度も課題を繰り返すことができていたのは良かった。次時の課題の提示の仕方も児童が学びたいと感じることができるような提示の仕方で良かった。

第1学年 算数【予習型】学習指導案

令和5年9月28日(木) 3校時 第1学年8名 指導者 佐々木まゆみ

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.7月 Google フォーム)
【導入】	1 4 自分で学習するときをめあてを立てたり、振り返りをしたりすることができているか。
【終末】	(ア いつもしている【5】 イ だいたいしている【0】 ウ あまりしていない【3】 エ していない【0】)
【展開】	4 授業では自分の考えと友達の考えを比べることができているか。 (ア できる【7】 イ どちらかというところ【0】 ウ どちらかというところできない【1】 エ できない【0】)

2 児童の学びに向かう力を発揮させるために ※白抜き丸数字は、学校共通の課題

【指導過程】	7月までの日々の授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】次時の課題について、意欲がもてるような手立てが必要である。
【展開】 【終末】	【展終①】計算はなんとかできるが、どう言葉で表せばいいか、書いたり話したりする活動が難しいので基礎基本となる語彙を増やす活動をしたり、説明の例に慣れたりしながら、少しずつ自分の言葉で表現できるような教材の工夫が必要である。 【展終②】みんなでまとめを確認し、振り返りの時間を確保する必要がある。
【習熟】	【習熟①】算数プリントや学習ワークを活用しながら、進捗状況やつまづきを把握し、指導に当たる。 【習熟②】家庭では復習として算数プリントを行い、保護者にチェックの協力をお願いする。
【導入】	【導入①】次時の課題をつかみ、自分から進んで取り組もうとする態度をもたせるようにする。

3 題材について

単元名	3つのかずのけいさん	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・3つの数の加減計算の場面を1つの式に表せることを理解し、その計算が確実にできる。	・2つの数の加法や減法を基にして、3つの加減計算の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え表現している。	・3つの数の加減計算について、式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを学ぼうとしている。

4 前時の授業終盤(導入)

主な学習活動	児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て
○次時の課題をつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>もんだい</b>                      5ひき のっています。                      3ひき おりました。                      4ひき のります。                      ねこは なんびきになりましたか。                 </div>	○3コマの絵を1コマずつ見せて、場面をとらえさせる。【予習①】 ○問題文を読ませながら、大事な数字、たずねているところ、足し算か引き算か分かる言葉に線を引かせる。 ○今までの3つの数の問題場面との違いを考えさせる。 ○減ったり増えたりしていることを捉えさせる。 ○話の場面に合わせて1つの式に表し、その式を考えてくることを伝える。

5 本時の予習(発言の予想)




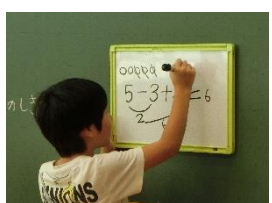
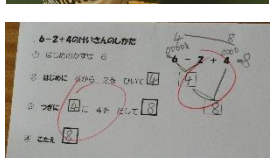
式は「 $5 - 3 + 4$ 」だと思います。理由を言います。はじめの数は5ひきだから5です。はじめに、3ひき降りるから数が減ります。だから、ひく(-)3です。つぎに、4ひき乗るから数が増えます。だから、たす(+)4です。このことから、式は「 $5 - 3 + 4$ 」です。

6 本時の目標

○3つの数の加減混合の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え、説明している。【思考・判断・表現】

7 本時(3/3)

	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を 発揮させるための教師の手立て	児童の反応・ 児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・ キーとなる発言・授業風景など
展開 25分	1 考えてきた式を発表する。	○前時の授業終盤での学習内容を想起させ、考えてきた式を確認させる。 ○話に合わせてブロック操作をさせたり、式にメモをさせたりすることで解決の見通しをもたせる。 ○まず、減って、次に増えていることをおさえる。	・なぜ、その式になるのか、理由を話し合っていた。  「おりました」は、数が減るからひき算、「のります」は数が増えるからたし算です。	・文章題の言葉に着目させた。  ひき算になるのはどうしてかな? たし算になるのはどうしてかな?  今までの式とどこがちがうかな?

<p>終末5分</p> <p>習熟10分</p> <p>導入5分</p>	<p>2 めあてをつかむ。</p> <p><b>めあて</b> 5-3+4のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>3 自力解決する。</p> <p>4 解決方法を話し合う。 自分の考えと友達の考えを比べながら聞く。 はじめのかずは5</p> <p>□□□□□</p> <p>①はじめに 5から3をひいて2</p> <p>□□ □□□</p> <p>②つぎに 2に4をたして6</p> <p>□□ □□□□</p> <p>5 計算の仕方を確認する。</p> <p>6 学習のまとめを行う。</p> <p><b>まとめ</b> ひく・たすのしきでも、まえからじゅんにけいさんする。</p> <p>7 練習問題に取り組む。</p> <p>8 次時の課題をつかむ。</p> <p><b>課題</b> 3つのかずのまとめをしましょう。</p>	<p>○全体でめあてを確認する。</p> <p>○ブロック操作と式を関連づけて考えさせる。【展終①】</p> <p>○ブロック操作をして、計算の仕方を唱えながら、計算させる。</p> <p>○児童に考えを説明させ、必要に応じて説明を加える。</p> <p>○1つの式に加法と減法が入っていることを確認する。</p> <p>○話に合わせたブロックの動きで考えたり、メモをして考えたりすることで、1つの式の計算ができることを確認する。</p> <p>○計算の手順を説明させ、前から順に計算することを確認する。</p> <p>5-3+4のけいさんのしかた ①はじめに 5から3をひいて2 ②つぎに 2に4をたして6 ③こたえ6</p> $\begin{array}{r} 5-3+4=6 \\ \swarrow \quad \searrow \\ 2 \quad \quad 6 \end{array}$ <p>○授業で分かったことを全体で話し合いながら、まとめていく。【習熟②】</p> <p>○理解が不足している児童に対して、計算の手順をブロック操作やメモなどをしながら、減ったり増えたりすることを捉えさせる。【習熟①】</p> <p>○家庭でも説明する問題を入れる。【習熟②】</p> <p>○本時の学習への取組を賞賛し、次時へとつなげる。【導入①】【展終②】</p>	<p>今までは、たす・たすとひく・ひくの式だったけれど今度はひく・たすの式だよ。お話の順に1つの式にするのは同じだよ。</p> <p>・今までの学習から、めあてと、見通しを考えていた。</p> <p>図・ブロック・メモを使って考えたらいい。</p> <p>うまくできなかったら、友達に聞かよ。</p> <p>・個人で考えた後、ペアで図やブロックを使ったり、式のメモを指したりしながら、説明し合っていた。相手の説明に対してのアドバイスや感想も述べていた。</p> <p>・うまく言えない子には、相手の子が教え合っていた。</p> <p>5-3+4の計算の仕方を説明します。 はじめの数は5です。はじめに5から3を引いて2です。つぎに2に4をたして6です。答えは6です。どうですか？</p> <p>分かりやすかったけど、指でこうの方がいいです。</p> <p>ブロックの動かし方が上手でした。</p> <p>・計算の仕方を全体で確認した。(ホワイトボードに式とメモを書きながら・ブロック操作しながら・図を描きながら)</p> <p>・まとめを自分達の言葉で考え、振り返りカードに記入していた。</p> <p>・家庭でも説明する問題を提示することで次時の意欲へと繋がっていた。</p>	<p>・3つの数の加減混合の式になることを押さえる。</p> <p></p> <p>うまくできなかったら、どうする？</p> <p></p> <p>・ペアの交流で計算のやり方(図・メモ・ブロック)がほぼ全員、分かっていたので、全体での確認の時間は取らず、まとめをして習熟の時間を多く確保するようにその見極めをする必要があった。</p> <p></p> <p></p> <p></p>
--------------------------------------	---	--	---	---

8 参観者のコメント (気づき・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など)

<p>視点</p>	<p>○自分で学習するときめあてを立てたり、振り返りをしたりすることができていたか。</p> <p>○授業では自分の考えと友達の考えを比べることができていたか。</p> <p>○既習の学習をもとにして、本時の学習に取り組もうとしていたか。</p>
<p>参観者</p>	<p>自分達の言葉でめあてを考え、見通しをもって学習していた。ペアでの交流では図を示したり、ブロックを操作したりしながら説明し、自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、説明の内容や仕方についてアドバイスをすることができていた。展開場面において、ペアで式や図・ブロックを示しながら説明できていたので、全体での開き合いの時間をカットし、習熟の時間やその他の時間にあてるなど、児童の定着度合いを見ながら授業を工夫していくとよい。</p>

第4学年 算数【予習型】学習指導案

令和5年 9月29日(金) 1校時 第4学年1組10名 指導者 椎山 美智子

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.7 Google フォーム)
【展開】	5 授業では、自分の考えに、友達や先生の考えを付け足すことができますか。
【終末】	(ア できる【5】 イ どちらかといえればできる【3】 ウ どちらかといえればできない【2】 エ 全くできない【0】)
【習熟】	17 苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができますか。 (ア いつもできている【3】 イ だいたいできている【6】 ウ あまりできていない【1】 エ できていない【0】)

2 児童の学びに向かう力を発揮させるために ※白抜き丸数字は、学校共通の課題

【指導過程】	9月(前単元「わり算の筆算を考えよう」)までの日々の授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】 友達の考えを参考にして自分の考えを書くことができるように、全員の予習を chromebook で見られるようにしている。 【予習②】 児童の予習をどう授業に生かし組み立てるか、進行役の児童と事前に打ち合わせる必要がある。
【展開】	【展終①】 開き合いの場面で、児童同士で質疑応答ができるように、進行役の児童を支援する必要がある。
【終末】	【展終②】 児童が自分の考えでまとめられるように、キーワードをおさえたり書き出しを揃えたりする必要がある。
【習熟】	【習熟①】 児童全員が分かるまで問題に取り組めるよう、時間を十分に確保する必要がある。 【習熟②】 理解に時間がかかる児童がいるため、教え合いや個別指導が必要である。
【振り返り】	【振返①】 単元の学習を振り返り、学びを今後の学習や生活につなげる必要がある。

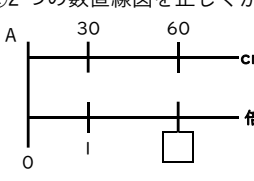
3 題材について

単元名	倍の見方		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知っている。	・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べ方を考察している。	・二つの数量の関係について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。	

4 前時の授業終盤(導入)

主な学習活動	児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て
○次時の課題をつかむ 課題 包帯 A と包帯 B があります。よくのびる包帯を買いたいと思います。包帯 A と包帯 B では、どちらがよくのびるといえるでしょうか。 包帯 A 30cm→60cm 包帯 B 15cm→45cm	○前時までの学習との違いに気付かせ、予習の見通しをもたせ、自分自身の言葉でめあてを書かせるようにする。【導入①】  ○引き算では、比べられないことを確認する。また、数直線図や式が A・B それぞれに必要なことをおさえる。  ○数直線図や式、自分の考えをノートにまとめ、それを写真に撮り、スライドに貼り付けさせる。
○次時のめあて めあて もとにする大きさがちがうときの、くらべ方を考えよう。	○教科書や友達の提出したノートを見て、参考にして書いてよいことを伝える。

5 本時の予習(記述の想定)

①2つの数直線図を正しくかき、倍を使って考えている。 A  $60 \div 30 = 2$ A と B の1とみる長さが違うので、それぞれののびた後の長さは、のびす前の長さの、何倍になっているかを考えて、2倍のびる A より3倍のびる B の方がよくのびる。	②数直線図は正しくかいているが、比べ方がわからない。 数直線図から、何をもとにして、どのように計算すればよいかわからない。	③数直線図を正しくかいていない。比べ方もわからない。 (友達のノートを参考に書いている。)
---	--	--

6 本時の目標

○差で比べられない場合、倍に着目して比較する方法を考えることができる。【思考・判断・表現】

○割合で比べる方法を生活に生かそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

7 本時 (4 / 4)

	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を 発揮させるための教師の手立て	児童の反応・ 児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・ キーとなる発言・授業風景など
展開 15分	<p>1 予習してきた自分の考えを、ノートや chromebook を使ってグループ (または全体) で説明する。 自分の考えと友達のことを比べながら聞く。</p> <p>○包帯 A と B の数直線図と式を確認する。</p> <p>○それぞれののばす前の長さを 1 とみて、のばした後の長さが何倍になっているかを計算する。</p> <p>○A が 2 倍、B が 3 倍のびるから、B の方がよく伸びる。</p>	<p>○教師は事前にスライドを確認する。課題が見られた児童の学び合いを観察し、適宜指導する。【予習①】</p> <p>○chromebook の画面や板書をしながら予習したことを説明し合い、質疑応答を行う。進行役の児童を中心として、全員で課題解決ができるようにする。【予習②】</p> <p>○進行役の児童が、指名や説明の補助を行う。(打ち合わせは、朝の時間に行っておく。) 適宜、指導者が支援を行う。【展終①】</p> <p>○もとの長さをそろえた場合でも、2 倍 (3 倍) の長さを比べると、B がよく伸びることを確認する。</p>	<p>・ペアでノートを見せ合い、予習の確認や質問を行う。</p> <p>30 ÷ 60 = 2 にならないよ。</p> <p>M さんのテープ図をかいて説明しているのが分かりやすかったです。</p> <p>・ペア学習でテープ図を使って説明していた児童 (M) の推薦があったが、発表の自信がないということで、別の児童が電子黒板のスライドに表示された児童 (M) の予習ノートのテープ図を使い説明を行う。</p> <p>・スライドのペン機能が使えれば、更にわかりやすく説明できたかもしれない。</p>	<p>分かりやすい説明ができていた人を紹介してください。</p>   
終末 10分	<p>2 数直線図や立式から、倍を使った考え方を確認し、用語「割合」を知る</p> <p>3 学習のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>まとめ</b> もとにする大きさがちがうときには、倍 (割合) を使ってくる必要がある。</p> </div>	<p>○授業で分かったことを、まずは一人でもとめさせる。書き出しを揃えておく。個別に評価する。【展終②】</p>	<p>・まとめに入る前に、もとの長さをそろえた場合の確認や新しい用語をおさえたことで、学習のポイントを焦点化できず一人でもとめることが難しい様子だった。</p>	<p>・間違った図や計算の例を教師が提示して、理解を深める方法もあったのではと思う。</p> <p>・司会 (児童) が気付けない間違いや児童の表情を教師が察知して、補足説明や進行をする必要がある。</p>
習熟 15分	<p>4 習熟問題に取り組む。</p>	<p>○まずは教科書の問題に取り組み、次にプリント問題に取り組む。その後、chromebook で問題作りをするか、教え合いを行うかを選ぶようにする。【習熟①】</p> <p>○理解が不足している児童には、個別指導を行う。【習熟②】</p>	<p>・習熟問題が終わって、ミニ先生になる方を選んでいたが、仲の良い児童や、答えだけを伝える傾向にあった。</p> <p>・計算が苦手な児童には計算機を渡してもよかった。</p> <p>・ネームプレートの進捗状況で遅れている児童に行くなどのルールがあるとよかった。</p>	<p>・ミニ先生に、教師用の赤ペンを貸し、特別感を持たせてもよいのではという意見も出た。</p>
振り返り 5分	<p>5 本単元の学習全体を通しての振り返りを行う。「わかったこと、がんばったこと、ともだちのよかったところ、もっとやりたいこと」</p>	<p>○本単元で学んだことや今後に生かしたいことなどを「わ・が・と・も」(特に「も」の視点で) をもとにまとめさせる。【振り返①】</p>	<p>・単元を通しての振り返りだったので、ノートをめくりながら振り返る児童の姿も見られた。</p>	

8 参観者のコメント (気付き・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など)

視点 ①授業では、自分の考えに、友達や先生の考えを付け足すことができていたか。

②苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができていたか。

③既習の学習を振り返り、本時の学習に活用しようとしていたか。

参観者

子どもたちの学び合う土台が、育ってきているように感じた。質問したり考えを付け足したりする児童や、あきらめずに計算をする児童が見られた。前時に学習したページを見ながら、振り返る児童の姿も見られた。

第4学年 算数【予習型】学習指導案

令和5年 11月20日(月) 5校時 第4学年1組10名 指導者 松尾 耕樹

テーマ 「自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～」

1 児童の学びに向かう力の実態

【指導過程】	児童の実態調査より【人】(R5.10 Google フォーム)
【展開】	5 授業では、自分の考えに、友達や先生の考えを付け足すことができますか。
【終末】	(ア できる【3】 イ どちらかといえればできる【6】 ウ どちらかといえればできない【1】 エ 全くできない【0】)
【習熟】	17 苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができますか。 (ア いつもできている【1】 イ だいたいできている【6】 ウ あまりできていない【3】 エ できていない【0】)

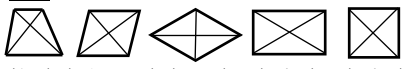
2 児童の学びに向かう力を発揮させるために ※白抜き丸数字は、学校共通の課題

【指導過程】	4年1組の部会授業(9月29日)及び前単元「計算のきまり」までの授業の課題(改善が必要な点)
【予習】 予習に関する意識	【予習①】分からないところや困ったことがあっても進んで質問したり、分かるまで尋ねたりすることが苦手な児童が複数名いる。 【予習②】予習を生かしてグループや全体で進んで話し合うことができる児童が少ない。
【展開】	【展終①】全体で話し合う場面で、話し合いが滞り進行役の児童によっては支援が必要なことがあった。
【終末】	【展終②】まとめの場面で、児童が自分の考えをまとめられるようにする必要がある。
【習熟】	【習熟①】児童全員が分かるまで問題に取り組めるよう、時間を十分に確保する必要がある。 【習熟②】理解に時間がかかる児童がいるため、教え合いや個別指導が必要である。
【導入】	【導入①】児童が次時の課題に見通しをもって主体的に予習ができるようにする必要がある。

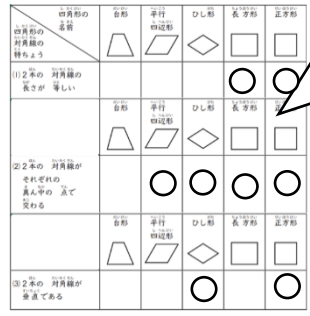
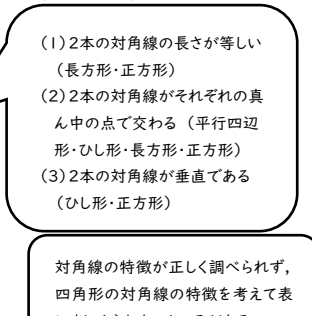
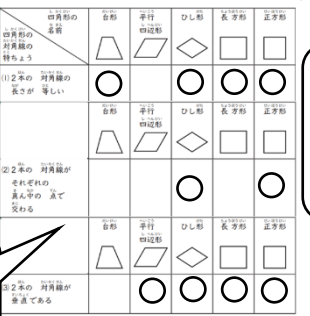
3 題材について

単元名	垂直、平行と四角形	
	知識・技能	思考・判断・表現
	主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の平行や垂直の関係について理解し、平行な二直線や垂直な二直線をかくことができる。</li> <li>平行四辺形、ひし形、台形の意味や性質、対角線について知り、かくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだしているとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直している。</li> <li>四角形(平行四辺形、ひし形、台形)について、かき方を考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形、ひし形、台形などについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付く学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。</li> </ul>

4 前時の授業終盤(導入)

<p>主な学習活動</p> <p>○次時の課題をつかむ</p> <p>課題</p>  <p>(台形) (平行四辺形) (ひし形) (長方形) (正方形)</p> <p>(① ひし形の対角線の特ちょうを調べましょう。)</p> <p>② それぞれの四角形で、次のことを調べましょう。</p> <p>(1) 2本の対角線の長さ</p> <p>(2) 2本の対角線が交った点から4つの頂点までの長さ</p> <p>(3) 2本の対角線が交ってできる角の大きさ</p> <p>○次時のめあて</p> <p>めあて</p> <p>いろいろな四角形の対角線の特ちょうについて考えよう。</p>	<p>児童の学びに向かう力を発揮させるための教師の手立て</p> <p>○予習の際に見通しをもって取り組めるように、それぞれの四角形の名前と対角線の定義と書き方を確認後、全体でひし形の対角線の特徴を調べて、表にまとめる活動を取り入れる。【導入①】</p> <p>○友達の考えを参考にして自分の考えを深められるように、予習はノートにまとめて写真に撮り、できるだけ早くスライドに貼るように指示する。また、教科書や友達の提出したノートを見て、参考にして書いてよいことを伝える。</p> <p>○いろいろな四角形の名前や形と対角線の特徴を照らし合わせて考えやすいように、対角線の特徴(1)～(3)の近くに四角形の名前と形があるような表を作成し、予習や授業で活用する。</p>
---	---

5 本時の予習(記述の想定)

<p>①全ての四角形の対角線の特徴を正確に調べて表にまとめることができている。(誤答なし)</p>  <p>(1) 2本の対角線の長さが等しい(長方形・正方形)</p> <p>(2) 2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わる(平行四辺形・ひし形・長方形・正方形)</p> <p>(3) 2本の対角線が垂直である(ひし形・正方形)</p> <p>対角線の特徴が正しく調べられず、四角形の対角線の特徴を考えて表にまとめられないところがある。</p>	<p>②一部の四角形の特徴を正確に調べて表にまとめることができている。(誤答あり)</p>  <p>友達の考えを写すだけになり、自分の考えをもてていない。</p>	<p>③四角形の対角線の特徴が調べられていない。</p> 
--	--	---



○様々な四角形の相互関係について、対角線に着目して捉え、説明している。【思考・判断・表現】

7 本時 (11/13)

	主な学習活動	児童の「自ら学びに向かう力」を 発揮させるための教師の手立て	児童の反応・ 児童に関する気付きなど	教師の働きかけ・ キーとなる発言・授業風景など																																															
展開 15分	1 予習してきた自分の考えをグループで伝え合う。  【話し合いの視点】 ・分からなかったところや困ったところを質問する。 ・友達の考えを知る。  【進め方】 ・表の対角線の特徴を横に見て、一つ一つ考えていく。 【取り上げたい内容】 ・等脚台形	○児童が困ったところを質問することができるように、事前にスライドを確認して課題が見られた児童の学び合いを観察し、問いかけや助言をする。【予習①】 ○進行役の児童を中心に、話し合いが意欲的に行えるように、朝の時間に打合せを行い、話し合いの進め方や取り上げたい内容を確認しておく。【展終①】	・グループでノートを見せ合い、予習の確認や質問を行う。  何で○になるの？	・進行役の児童と学習の進め方や時間配分を確認する。(展開時に2分程度で打合せを行った。)  ①どこが大事だと思いますか？ ②対角線の特徴が分かりやすく、順序よく進めるには、どう進行していけばいいと思いますか？																																															
	2 進行役の児童を中心に、全体で四角形(台形、平行四辺形、長方形、正方形)の対角線の特徴を表にまとめる。  3 個別に学習のまとめをノートに書く。  【まとめ】 対角線の特ちょうから、どんな四角形かが分かる。	○児童が主体的に学習に取り組みやすいように、進行役の児童が全体での話し合いを進め、教師は話し合いが滞らないように助言を行う。【予習②】 ○児童が自分でまとめられるように、書き出しをそろえる。【展終②】	・進行役の児童を中心に全員が進め、まとめの際には教師が支援した。  納得した？  本当に長方形の対角線は垂直になりますか？  対角線の特ちょうから、	①対角線の特徴で、意見が割れているところが大事そうです。 ②対角線の特徴ごとに進行すると思います。  具体的な四角形とその対角線の特徴をまとめました。  対角線の特徴をくわしくまとめられましたね。																																															
習熟 15分	4 習熟問題に取り組む。  レベル①教科書の問題(改良) レベル②プリントの問題 レベル③スライドで問題作り・ミニ先生・デジタルドリルから選択	○できるようになるまで進んで取り組めるように、段階的に問題を提示する。【習熟①】 ○全員が理解できるように、丸付けコーナーを設け、教師は机間指導を行う。【習熟②】	今日学んだことを参考に、自分の言葉でまとめてみよう。  ここは自信がないから教えてほしいな。  対角線の長さを測ったらどうかな？ 	・まとめは個別評定し、不十分な場合はキーワードを確認した。 ・習熟時の教え合いが活発になるようにミニ先生には教師用の赤ペンを貸し出した。  たくさん正解することができた。次の問題も頑張ろう!! 																																															
	5 次時の課題をつかむ。  【課題】 下のア～オの四角形の名前を、表に書きましょう。また、①～⑥の特ちょうがいつでもあてはまるものに、○を書ききましょう。  (教科書 P39)	○児童の問いが生じるように、本時との違いについて問い、「いつでもあてはまる」ことについて確認する。【導入①】 <table border="1" data-bbox="510 1500 845 1680"> <thead> <tr> <th>四角形の名前</th> <th>ア</th> <th>イ</th> <th>ウ</th> <th>エ</th> <th>オ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>五角形の特ちょう</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>① 2本の対角線が垂直である</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 2本の対角線の長さが等しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 2本の対角線がそれぞれ真ん中の点で交わる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 長かい短かい2組の辺が平行である</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 4つの辺の長さがすべて等しい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 4つの角がすべて直角である</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	四角形の名前	ア	イ	ウ	エ	オ	五角形の特ちょう						① 2本の対角線が垂直である						② 2本の対角線の長さが等しい						③ 2本の対角線がそれぞれ真ん中の点で交わる						④ 長かい短かい2組の辺が平行である						⑤ 4つの辺の長さがすべて等しい						⑥ 4つの角がすべて直角である						今日と違うところはどこだろう？  今日是对角線の特徴だったけど、次は四角形の特徴のようだ。  今までに習ったところがどのように使えるのかな。 
四角形の名前	ア	イ	ウ	エ	オ																																														
五角形の特ちょう																																																			
① 2本の対角線が垂直である																																																			
② 2本の対角線の長さが等しい																																																			
③ 2本の対角線がそれぞれ真ん中の点で交わる																																																			
④ 長かい短かい2組の辺が平行である																																																			
⑤ 4つの辺の長さがすべて等しい																																																			
⑥ 4つの角がすべて直角である																																																			
導入 10分	6 次時のめあて  【めあて】 四角形の特ちょうについて考えよう。	○次時で発表できるように、本時の学習を基に予習したことをスライドに貼るよう指示する。																																																	

8 参観者のコメント (気付き・良かった点・視点別・キラリと光った瞬間など)

- 視点 ①授業では、自分の考えに、友達や先生の考えを付け足すことができていたか。  
②苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができていたか。  
③既習の学習を振り返り、本時の学習に活用しようとしていたか。

参観者 グループでの開き合いにおいて、友達の考えを聞き、自分なりに書き込みや訂正をしている児童が数名いた。自分たちで進めたりミニ先生が教えたりして高め合っている姿がよかった。また、指示しなくても黒板の前に出て説明している様子やコンパス・三角定規等を使って話し合う様子は自ら学びに向かう姿だと感じた。一方で、算数用語の理解を徹底させることや調べ方(具体的に使用する道具)の確認をしておくべきだったことなどの課題が見られた。



# 研究資料

# たか島っ子学びのかまえ

## 学 習 道 具

ふでばこの中 (必要のないものが入っていませんか)

- けずられたえんぴつ (Bか2B、高学年はHBもよい) 5本
- 「赤えんぴつと青えんぴつ」 または 「赤ペンと青ペン」
- じょうぎ (2年生以上)
- よく消える消しゴム
- ネームペン

引き出しの中 (学習にしているものをそろえておきましょう)

- はさみ・のり
- 「クーピー」 または 「色えんぴつ」

ノートの使い方 (学習のあしあとをきちんと残しましょう)

- えんぴつは正しく持ち、姿勢よく書きましょう。
- 下じきをして書きましょう。
- はじめに日にちを書きましょう。

※学習を始める前に机の上をかたづけしてから始めましょう。

## 家庭での生活

1 家で勉強する習慣をつけましょう

- 毎日、同じ時刻に始めるようにします。

2 朝食は主食とおかずをしっかりととりましょう

- 朝食は、「頭」と「体」のエネルギーです。

3 すいみんをしっかりととりましょう

- 寝る時刻の目安は、低学年9時、中学年9時半、高学年10時です。
- 小学生のすいみん時間は、「8時間以上」です。

4 鷹島小学校PTAメディアルールを守りましょう

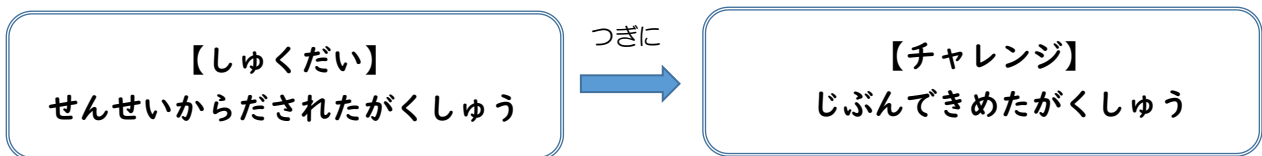
- メディアと正しく付き合います。



# かていがくしゅうのてびき（1・2ねん）

- ◎ いえにかえったら、まず、しゅくだいをしましょう。
- ◎ まいにち、30ぶんよりながくがくしゅうしましょう。
- ◎ テレビをけして、しゅうちゅうしてがくしゅうしましょう。
- ◎ がくしゅうのはじめとおわりを、おうちのひととはなしあってきめましょう。
- ◎ がくしゅうがおわったら、かならずおうちのひとにみてもらいましょう。


## がくしゅうのメニュー



## チャレンジノートのかきかた

- ① なにをするのかを かく
- ② がんばることを かく
- ③ れんしゅうなどをする
- ④ ふりかえりを かく

※ 「navima」などをしたときも、ノートに①④をかきましょう！



【 チャレンジコース 】

～1年生～  
につきコース

～2年生～  
けいさんコース  
かんじコース  
につきコース

せんせいからのチャレンジ  
すきなことコース

なまえ



## 家庭学習の手引き（5・6年）

- ◎ 家に帰ったら、まず、宿題をしましょう。
- ◎ 毎日、1時間10分（70分以上）学習しましょう。
- ◎ テレビを消して、集中して学習しましょう。
- ◎ 学習の始めと終わりを、家の方と話し合ってください。



学 習

:

~

:

### 学習のメニュー

宿題が終わったら、チャレンジに取り組みましょう！

【例】宿題（40分）→チャレンジ（30分）

#### 【宿題】

先生から出された課題をする学習



#### 【チャレンジ】

自分で内容や方法を決める学習

### チャレンジの約束《進め方・ノートの書き方》

- ① テーマ（課題）を決める
- ② めあてを決める
- ③ 自力解決
- ④ まとめ・ふり返り・分析・次回への計画

※ 「navima」などを使う時にも、ノートに①④を書きましょう！

#### 【チャレンジコース】

予習コース

日記コース

復習コース

好きなものコース

新聞コース

先生からの挑戦状コース

※同じコースだけ続けないようにしましょう。

※好きなものコースは、週に1回くらいにしましょう。

名前

# チャレンジカードの取組について

子どもたちの頑張りをシールや賞状で賞賛することで、意欲的にチャレンジ学習できるようになることを目指す。

## ● 5pごとに担任からシールをもらう（単色）

- ・ 基本的に1日見開き2pで取り組む。
- ・ 1日何ページしてもよいが、2p目以降は半分以上埋めて1pと数える。
- ・ 絵の大きさや文字の大きさなどでごまかさないように、学年に応じて指導する。
- ・ 細かい判断は担任に任せる。

※ シールの上または側に日付を書く。

## ● 25pごとにご褒美シールを準備する。

- ・ 先生賞は、ノートを持ってその先生にシールをもらいに行く。（褒めるため）
- ・ シールは学校で一括注文する。
- ・ 達成後、電子黒板で紹介していく。

## ● 200p、400pはシールと共に小さな賞状をもらう。【賞状サイズB6】

（200p・・・教頭先生 400p・・・校長先生）

- ・ 賞状は、基本的に担当で準備する

## ● 白表紙に印刷し、下敷きに挟めて使用する。







- 1つ合格したら担任からシール（単色）をもらい、日付をその上(または側)に書く。

※分割してからの合格でもよい

【例：20問の場合】

5問ずつに分けた場合

→ ○の4分の1ずつ担任が鉛筆等で塗り、20問合格したらシールを貼る。

10問ずつに分けた場合

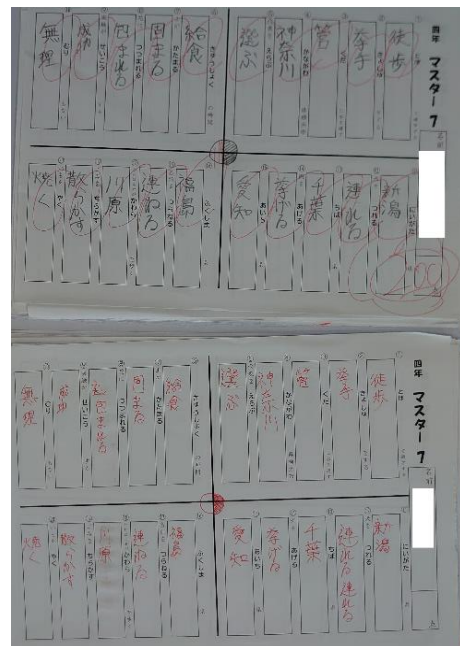
→ ○の半分を担任が鉛筆等で塗り、20問合格したらシールを貼る。

※苦手な児童には、担任が独自の手立てをとってもよい。

- ドリル問題を全てクリアしたら大シールを選ばせてゴールに貼る。
- レベルアップは、ドリル問題と一緒に挑戦してもよいし、ドリル問題を全部クリアしてから挑戦してもよい。
- 台紙はコピー用紙に印刷し、漢字用白表紙に貼り付けて使用する。
- ゴールした児童には、「マスターコース」「グランドマスターコース」を準備する。
  - 「マスターコース」  
これまでの「ドリル問題」を、まとめ用のシートにコピーして取り組ませる。
  - 「グランドマスターコース」  
前学期の漢字や前学年の漢字などを追加した問題に取り組ませる。



【表紙】



【中】

鷹島小タブレット(たかたぶ)スキル表

◎:重点指導 ・:活用

自分 先生

ソフト	番号	操作	1年	2年	3年	4年	5年	6年	できる	サイン
①基本操作	1	電源のオン・オフ	◎	・	・	・	・	・		
	2	クリック	◎	・	・	・	・	・		
	3	ダブルクリック	◎	・	・	・	・	・		
	4	ドラッグ&ドロップ	◎	・	・	・	・	・		
	5	コピー&ペースト		◎	・	・	・	・		
	6	名前を付けて保存(出席番号等)			◎	・	・	・		
	7	名前を付けて保存(検索しやすい名前の付け方)						◎	・	
②クラスルーム	8	クラスルームに参加する	◎	・	・	・	・	・		
	9	クラスルームを見て、課題を確認する		◎	・	・	・	・		
	10	課題を提出する			◎	・	・	・		
③写真	11	写真撮影	◎	・	・	・	・	・		
	12	撮影した写真の閲覧	◎	・	・	・	・	・		
	13	写真を拡大して閲覧	◎	・	・	・	・	・		
	14	写真撮影(アップやルーズ)		◎	・	・	・	・		
	15	撮影した写真のトリミング						◎	・	
④動画	16	動画撮影	◎	・	・	・	・	・		
	17	撮影した動画の視聴	◎	・	・	・	・	・		
⑤インターネット 検索	18	Webページの閲覧		◎	・	・	・	・		
	19	見たい内容をクリック		◎	・	・	・	・		
	20	「戻る」「進む」の操作		◎	・	・	・	・		
	21	「お気に入り」に登録・削除			◎	・	・	・		
	22	キーワード検索(指定された単語)					◎	・	・	
	23	キーワード検索(任意の単語)						◎	・	
⑥文字入力	24	キーワード検索(効果的な単語)						◎		
	25	タッチペンで入力(手書き)	◎	◎	・	・	・	・		
⑦ドキュメント	26	ローマ字入力			◎	◎	・	・		
	27	入力された文字に改行を挿入			◎	・	・	・		
	28	入力された文字のフォント(色や大きさ)変更			◎	・	・	・		
	29	簡単な文書やアンケート等の作成					◎	・	・	
	30	「新聞」作成					◎	・	・	
	31	ファイルのレイアウト(文字列の方向余白等)設定							◎	
⑧スライド	32	図やグラフの挿入						◎		
	33	見本を利用して3枚程度のプレゼンテーション作成					◎	・	・	
	34	新規作成で3枚程度のプレゼンテーション作成					◎	・	・	
	35	アニメーションの追加						◎	・	
⑨スプレッドシート	36	写真や動画を組み合わせて作成						◎		
	37	セルや表に数値や文字の入力						◎	・	
⑩ジャムボード	38	表から基本的なグラフ作成							◎	
	39	自由なお絵かき	◎	・	・	・	・	・		
	40	「よせ書き」で意見交換		◎	・	・	・	・		
	41	「ふせん」で意見交換			◎	・	・	・		
⑪フォーム	42	写真や画像の挿入			◎	・	・	・		
	43	アンケートの回答	◎	・	・	・	・	・		
⑫プログラミング (スクラッチ)	44	目的に合ったアンケートの作成						◎	・	
	45	基本的な操作(パズル等)		◎	・	・	・	・		
	46	基本的な命令(繰り返しや条件等)			◎	◎	・	・		
	47	簡単なプログラム作成						◎	◎	

月	日	曜日	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6	12	月	(IDと)パスワードを入れて起動	クラスルームを見て、課題を確認する。	名前を付けて保存(出席番号等)	インターネットでキーワード検索(指定された単語)	名前を付けて保存(検索しやすい名前の付け方)(※2年生の補助)	1年生の補助
6	19	月	写真や動画を撮影して閲覧(6年生と写真を撮る①)	Webページの閲覧 見たい内容をクリック 「戻る」「進む」の操作	クラスルームを見て、課題を提出する。	ドキュメントで文書やアンケート、新聞等の作成	撮影した写真のトリミング(※2年生の補助)	1年生の補助 (ペアの1年生と写真を撮る①)
7	12	水	クラスルームに参加し、ジャムボードでお絵かきや文字入力	タッチペンで入力(手書き)	Webサイトを「お気に入り」に登録・削除	ドキュメントで文書やアンケート、新聞等の作成	キーワード検索(任意の単語)(※2年生の補助)	1年生の補助
7	19	水	写真を拡大して閲覧	写真撮影(アップやルーズ)	ドキュメントを使って、ローマ字入力や改行、文字のフォントの変更	ドキュメントで文書やアンケート、新聞等の作成	スライドで作ったプレゼンテーションにアニメーションの追加	キーワード検索(効果的な単語)
9	13	水	タッチペンで入力(手書き)	ジャムボードを使って(よせ書きで)意見交換	ジャムボードを使って(ふせんで)意見交換	スライドで3枚程度のプレゼンテーション作成	スプレッドシートのセルや表に数値や文字の入力	ファイルのレイアウト(文字列の方向余白等)設定、図やグラフの挿入
9	27	水	タッチペンで入力(手書き)	コピー&ペースト	ジャムボードに写真や画像の挿入	スライドで3枚程度のプレゼンテーション作成	フォームで目的に合ったアンケートの作成	スライドで写真や動画を組み合わせて作成
10	11	水	アンケートの回答	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	スプレッドシートで表から基本的なグラフ作成
10	25	水	ジャムボードでお絵かき	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)
11	22	水	クリック、ダブルクリック、ドラッグ&ドロップ	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)	プログラミング(スクラッチ)
12	13	水	クリック、ダブルクリック、ドラッグ&ドロップ	タイピング練習(ポップタイピング)	タイピング練習(ポップタイピング)	タイピング練習(ポップタイピング)	タイピング練習(ポップタイピング)	タイピング練習(ポップタイピング)
12	20	水	ジャムボードでお絵かきや文字入力	タイピングコンテスト(ポップタイピング)	タイピングコンテスト(ポップタイピング)	タイピングコンテスト(ポップタイピング)	タイピングコンテスト(ポップタイピング)	タイピングコンテスト(ポップタイピング)
2	14	水	ペアの6年生と写真を撮る②	1年間の復習	1年間の復習	1年間の復習	1年間の復習	1年生の補助 (ペアの1年生と写真を撮る②)



- C やらないと恥ずかしいから (レベル2)
- D 先生が大切だと言っているから (レベル3)
- E 学習の役に立つから (レベル4)
- F 学習することが楽しいから (レベル5)
- G その他 (記述)

3 あまりしていない・していないと答えた人に聞きます。  
予習をしていないのはなぜですか。(1番当てはまるものを選ぶ)

- A したくないから
- B やっても意味がないと思うから
- C したいけれどやり方がわからないから
- D その他 (記述)

4 算数以外の教科でも予習をしていますか。

- |          |          |
|----------|----------|
| いつもしている  | だいたいしている |
| あまりしていない | していない    |

5 ICTを使って自分にあった問題や方法を選び取り組むことができますか。

- |                |               |
|----------------|---------------|
| できている          | どちらかといえばできている |
| どちらかといえばできていない | できていない        |

#### 【メタ認知・レジリエンス】

1 自分の得意なことや苦手なことが分かっていますか。

- |           |            |
|-----------|------------|
| よく分かっている  | だいたい分かっている |
| あまり分かっている | 分かっていない    |

2 自分で学習するときに、めあてを立てたり、ふりかえりをしたりしていますか。

- |          |          |
|----------|----------|
| いつもしている  | だいたいしている |
| あまりしていない | していない    |

3 自分に合った学習のやり方を知っていますか。

- |         |           |
|---------|-----------|
| よく知っている | だいたい知っている |
| あまり知らない | 知らない      |

4 自分のやり方がうまくいっているか考えながら学習していますか。

- |          |          |
|----------|----------|
| いつもしている  | だいたいしている |
| あまりしていない | していない    |

5 苦手な問題に、できるようになるまで取り組むことができますか。

いつもできている            だいたいできている

あまりできていない        できていない

6 まちがった問題をやり直すことができますか。

いつもできている            だいたいできている

あまりできていない        できていない

## 学び方アンケート（児童）

### 低学年用

#### 【確かな学力】

- 1 じゅぎょうでは、ともだちや せんせいの おはなしを、しっかりきいていますか。  
しっかりきいている                      だいたいきいている  
あまりきいていない                      きいていない
- 2 じゅぎょうでは、わからないことや きになることを、ともだちや せんせいに きくことができますか。  
いつもきくことができる                      だいたいきくことができる  
あまりきくことができない                      きくことができない
- 3 じゅぎょうでは、じぶんのかんがえを はなしたり、かんがえたわけを はなしたりすることができますか。  
はなすことができる                      だいたいはなすことができる  
あまりはなすことができない                      はなすことができない
- 4 じゅぎょうでは、じぶんのかんがえと ともだちのかんがえを くらべることが できていますか。  
くらべることができる                      だいたいくらべることができる  
あまりくらべることができない                      くらべることができない
- 5 じゅぎょうでは、じぶんのかんがえに、せんせいやともだちのかんがえをつけたすことができますか。  
つけたすことができる                      だいたいつけたすことができる  
あまりつけたすことができない                      つけたすことができない
- 6 じゅぎょうでは、わかったことや できるようになったことを、ノートにかくことができますか。  
かくことができる                      だいたいかくことができる  
あまりかくことができない                      かくことができない

#### 【自律】

- 1 いえで さんすうの よしゅうをしていますか。  
いつもしている                      だいたいしている  
あまりしていない                      していない



- 2 いつもしている・だいたいしているところをたえたとひとにききます。  
 よしゅうをしているのは どうしてですか。(1ばんあてはまるものをえらぶ)
- A やらないと おこられるから (レベル1)  
 B ほめられたいから (レベル1)  
 C やらないと はずかしいから (レベル2)  
 D せんせいが たいせつだと いうているから (レベル3)  
 E べんきょうの やくに たつから (レベル4)  
 F べんきょうすることが たのしいから (レベル5)  
 G そのほか (記述)
- 3 あまりしていない・していないところをたえたとひとにききます。  
 よしゅうを していないのは なぜですか。(1ばんあてはまるものをえらぶ)
- A したくないから  
 B やっても いみがないと おもうから  
 C したいけれど やりかたが わからないから  
 D そのほか (記述)
- 4 さんすうではない きょうかでも よしゅうを していますか。  
 いつもしている                      だいたいしている  
 あまりしていない                      していない
- 5 タブレットをつかって じぶんにあった もんだいや やりかたを えらんで べんきょうすることができていますか。  
 できている                                      どちらかといえばできている  
 どちらかといえばできていない              できていない

【メタ認知・レジリエンス】

- 1 じぶんの とくいなことや にがてなことが わかっていますか。  
 よくわかっている                      だいたいわかっている  
 あまりわかっていない              わかっていない
- 2 じぶんでべんきょうするときに、めあてをたてたり、ふりかえりをしたり していますか。  
 いつもしている                      だいたいしている  
 あまりしていない                      していない

- 3 じぶんにあった べんきょうの やりかたを していますか。  
よくしている                      だいたいしている  
あまり知らない                      知らない
- 4 じぶんのやりかたが うまくいっているか かんがえながら べんきょうしていますか。  
いつもしている                      だいたいしている  
あまりしていない                      していない
- 5 にながてなもんだいでも、 できるようになるまで がんばることが できていますか。  
いつもできている                      だいたいできている  
あまりできていない                      できていない
- 6 まちがったもんだいを やりなおすことが できていますか。  
いつもできている                      だいたいできている  
あまりできていない                      できていない



8. お子さんは、まちがった問題をやり直すことができますか。

- 1. いつもできている
- 2. だいたいできている
- 3. あまりできていない
- 4. できていない
- 5. 分からない

9. お子さんは自ら宿題に取り組んでいますか。

- 1. 自ら取り組む
- 2. 声を掛けると取り組む
- 3. 声を掛けても取り組むのに時間がかかる
- 4. その他( )

10. お子さんは自分の予定や都合に合わせて計画を立てながら、学習に取り組んでいますか。

- 1. できている
- 2. だいたいできている
- 3. あまりできていない
- 4. できていない
- 5. 分からない

11. 小学校で決めた、学年に応じた家庭学習の時間を知っていますか。

- 1. 知っている
- 2. 知らない





# アウトメディアカード (毎月第3週はアウトメディアウィーク)

年 名前

1 目標を決めましょう。

ねる時刻	時	分
おきる時刻	時	分

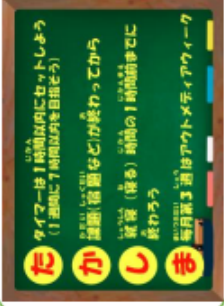
小学生の望ましい睡眠時間は、9～11時間、少なくとも8時間です。  
文部科学省「早寝早起朝ごはんはんで輝く君の未来～睡眠リズムを整えよう～」より

今月のメディアの目標

・ノーメディア

・( )を( )以内

※タブレット学習は含みません



た:メディア使用は1時間  
か:メディアは宿題が  
おわってから  
し:ねる1時間前には  
メディアをおわる

2 1週間取り組みましょう。

この日のかえってから	①	②	③	この日のあさ	④	⑤	おうちのサイン
	今月のメディアの目標	おうちのひと学校のできごとに ついてはなす	チャレンジに 取り組みむ		はやね はやおき	あさごはん	
11月16日(木)				11月16日(木)			
11月17日(金)				11月17日(金)			
11月20日(月)				11月20日(月)			
11月21日(火)				11月21日(火)			
11月22日(水)				11月22日(水)			
〇の数							

〇の数の合計  
 $\times 4 =$  点

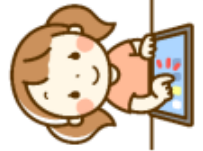
今までの得点

今までのレベル

1000点～	レベル10
900点～	レベル9
800点～	レベル8
700点～	レベル7
600点～	レベル6
500点～	レベル5
400点～	レベル4
300点～	レベル3
200点～	レベル2
100点～	レベル1
～99点	レベル0

3 1週間取り組んだ感想を書きましょう。(がんばったこと、気づき、今後がんばりたいこと等)

感想



今後がんばりたいこと

おうちの人以上り



先生より



## 「今月のメディアの目標」の決定について

①「ノーメディア」コースと「時間設定」コースを選びます。

今月のメディアの目標  
 ・( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

目標の決定  
 おわり

今月のメディアの目標  
 ・( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

今月のメディアの目標  
 ・( )ゲーム( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

②メディア機器または内容を記入します。  
 家庭に合ったものをお選びください。

メディア機器	すべて、テレビ、ゲーム機、スマホ、ケータイ、タブレット、パソコンなど
内容	ゲーム、動画、インターネット、SNS など

③時間を記入します。(0分、15分、30分、1時間など)  
 鷹島小メディアルールでは「1時間以内」を目標としています。

## 記入例

今月のメディアの目標  
 ・( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

すべてのメディアを使いません。

今月のメディアの目標  
 ・ノーメディア  
 ・( )メディアすべて( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

すべてのメディアの時間が  
 合わせて30分となります。

今月のメディアの目標  
 ・ノーメディア  
 ・( )ゲーム・スマホ・  
 タブレット( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

テレビは入れずに取り組むようにな  
 ります。

今月のメディアの目標  
 ・ノーメディア  
 ・( )ゲーム( )を( )以内  
 ※タブレット学習は含みません

ゲームは使わないこととなります。  
 (スマホのゲーム、ゲーム機など)

※テレビは「ニュース」「天気予報」「スポーツ」「ニュース」を含むかどうかなど、事前にご家庭で確認をしてください。

※学校からの課題もありますので、「タブレット学習」はこの取組には含みません。

※お子さんや家庭に合った形で実施ができるように考えられています。事前によく話し合いをしてから取り組まれてください。







研究同人

校 長	古 里 拓 也	教 諭	摩 嶋 俊 祐
教 頭	野 口 良 吾	教 諭	福 原 美 里
教 諭	佐々木 まゆみ	教 諭	小 谷 直 己
教 諭	山 下 彩 乃	養 護 教 諭	岡 部 幸 代
教 諭	山 口 真 優 希	事 務 職 員	吉 永 浩
教 諭	森 光 文 子	非 常 勤 講 師	石 橋 早 苗
教 諭	松 尾 耕 樹	用 務 員	松 本 美 和
教 諭	椎 山 美 智 子	教 員 支 援 員	木 寺 勝 代

【転出・退職職員等】

講師等 富 村 碧 海  
川 口 ひかる  
金井田 あゆみ